

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 …………… 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- \*賛美 …………… 172番
- \*交読文 …………… 63番
- \*使徒信条 …………… 会衆一同
- \*頌栄 …………… 174番
- 礼拝のための祈り ……… 川合ゆきえ姉妹
- 賛美 …………… 178番
- メッセージ …………… 何のために聖霊を求めるのか(使徒 1:8)
- 御言葉を適用する祈り … 会衆一同
- 賛美 …………… 179番
- 献金感謝の祈り ……… パスター
- 報告と歓迎 ……………
- \*主の祈り …………… 会衆一同
- \*祝祷 …………… パスター

祈祷課題

- この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- 病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- 兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- 主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- 終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。求める\_\_\_\_は得、捜す\_\_\_\_は見いだし、門をたたく\_\_\_\_はあけてもらえるからである。・・・このように、\_\_\_\_は悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとしたら、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるのか。(ルカ 11:9-13)

助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、\_\_\_\_にすべてのことを教え、また、わたしが\_\_\_\_に話したすべてのことを思い起こさせてください。わたしは\_\_\_\_に平安を残します。わたしは、\_\_\_\_にわたしの平安を与えます。わたしが\_\_\_\_に与えるのは、世が与えるのとは違います。\_\_\_\_は心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。(ヨハネ 14:26,27)

本日ペンテコステは、イエス・キリストの弟子達が、聖霊に満たされ、力を受けた事を記念する日である。聖霊が主のしもべにもはしためにも与えられる事は、旧約の預言者達によって預言されており(ヨエル 2 章)、それを求めるように、また、待ち望むようにと、イエス様も命じられた。(使徒1章、ルカ 11:9-13)

聖霊を与えて下さい、聖霊充滿を下さい、と求めるクリスチャンは多いが、そもそもなぜ聖霊を求めるべきなのか、いざ聖霊が与えられたら、どうすべきなのかを知らない人が多い。そこで、私達は何の為に聖霊を求め、その力を何のために用いるべきなのかを、今日、学びたい。

「聖霊があなたがたに降る時、あなたがたは”力”を受け、地の果てまでわたしの証人となる」(使徒 1:8)

力(デュナミス)。それはダイナマイトの語源で、ダイナマイトのような莫大なパワーを持つものであり、その力が与えられる目的は、地の果てまでイエス様の証人となる事である。聖霊に満たされた弟子達は、何を伝え、表現したのか。それは始終一貫して、イエス様の事である。そもそも聖霊は、イエスキリストをあかしする霊である。「わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかします。」(ヨハネ 15:26) 「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。」(1ヨハ 4:2-3)

また、誰でも聖霊によるのでなければ、イエスは主であると告白できない。(1コリント 12:3)

皆さんは、何のために聖霊を求めているだろうか。特殊能力が与えられて大活躍したいとか、人の上立って偉くなりたいとか、エキサイティングでスリリングな人生を送りたいとか、そういう動機で聖霊を求めていないだろうか。聖霊が与えられるのは、まさにイエス・キリストをあかしするためであり、イエス様が抜けながら聖霊を求めるのは、全くのお門違いである。聖霊は、その人を栄光化するのではなく、イエス・キリストを栄光化する霊であり、自分から語るのではなく、父なる神から聞くまます(ヨハネ 16:13)。この「自分から語るのではなく、聞くまます」という特徴は、イエス様の特徴でもあり(ヨハネ 12:49、14:10)、聖霊に導かれるキリスト者も、自分由来の事は一切語らず、ただ上から与えられるままに語り、行動する。弟子達は、ペンテコステ前は自分から語って色々な失敗をした。しかし、ペンテコステ以降は、自分由来の事は一切語らず、ただ聖霊に導かれるまます(使徒 4:1-21)

ペテロもパウロも、どの弟子達も、迫害されつつも王や高官達に命がけて伝え、弁明した内容は、イエス様の誕生と生涯、イエス様の人格と品性、イエス様の十字架の死と復活、昇天、そして再臨についてだった。聖霊が与えられるためには、まず、キリストの証人となる事の願いと情熱が必要である。聖霊に満たされたいと願う人は、イエス様の誕生を、生涯を、イエス様の人格や品性を、イエス様の十字架を、死を、復活を、昇天を、そして再臨を、余すところなく伝えることができますように、地の果てにまで行きますように、迫害や死をも恐れずに、大胆にキリストの証をさせてください、と、祈るべきなのだ。『主よ、いま、彼らの脅迫に目をとめ、僕たちに、思い切って大胆に御言葉を語らせて下さい。そしてみ手を伸ばして癒しをなし、聖なる僕イエスの名によって、しるしと奇跡を行わせて下さい』。彼らが祈り終わると、その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされて、大胆に神の言を語り出した。『(使 4:29) また、聖霊は聖なる霊である。自らをきよくする努力をしない者にどうして聖なる霊が宿って下さるだろうか。『自らきよくなるように努めなさい。きよくならなければ、だれも主を見ることはできない。』(ヘブル 12:14) そして、弟子達のように、聖徒達と共に集まり、神の都エルサレム(平和の土台)から離れず、共に熱心に祈って聖霊を求めらるのである。それも、求め、探し、叩く気構えで、祈り続けるのだ。『天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるのか。』(ルカ 11:13)

聖霊を求め、それも豊かに与えられ、迫害を恐れず地の果てにまで出て行き、主イエスの名によって悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、手で蛇をつかみ、毒を受けても決して害を受けず、病人に手を置いて癒し、イエス様に栄光を大いに捧げる皆さんでありますように！ イエス様の名前によって祝福します！

